

薬には病気を治したり、^{しょうじょう}症状をやわらげたりする効果がある一方、副作用があらわれることがあります。医師に指示された用法・用量にしたがって使用してください。体調が良くなったと自分で判断し、使用することをやめたり、量を加減したりすると、病気が悪化することがあります。薬のことでわからないこと、心配なことなどがありましたら、医師や^{やくざいし}薬剤師に相談してください。

メプチンエア-10 μ g 吸入 100回

<p>一般名： プロカテロール塩酸塩水和物 (Procaterol Hydrochloride Hydrate)</p>
--

販売名	メプチンエア-10 μ g 吸入 100回
形状	

1.どんな薬

- この薬は、気管支の筋肉に働きかけて、^{せま}狭くなった気道を広げ、呼吸を楽にします。[定量^{ふんむしき}噴霧式気管支拡張剤]

2.この薬を使用できない人、特に注意して使用する必要がある人

- ⊗ 次の人はこの薬を使用できません。必ず医師や^{やくざいし}薬剤師に相談してください。
過去にメプチンエアに含まれる成分で^{かびんしょう}過敏症のあった人
- 次の人は特に注意が必要です。使い始める前に医師や^{やくざいし}薬剤師に相談してください。
 - ・^{こうじょうせんきのうこうしんしょう}甲状腺機能亢進症（^{こうじょうせん}甲状腺機能が高い）の人
 - ・高血圧の人
 - ・心臓に障害のある人
 - ・^{とうりょうびょう}糖尿病の人
 - ・^{ていさんそけっしょう}低酸素血症（血液中の酸素が少ない状態）の人
 - ・^{にんが}妊婦 または ^{にんしん}妊娠している可能性がある人
 - ・授乳中の人
- この薬には一緒に使用してはいけない薬や、一緒に使用する場合に注意が必要な薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師や^{やくざいし}薬剤師に相談してください。

3.この薬を使うにあたり注意すべき副作用・注意すべきこと

- この薬の使用により、以下のような^{しょうじょう}症状があらわれることがあります。これらの^{しょうじょう}症状に気づいたら、医師や^{やくざいし}薬剤師に相談してください。

主な ^{しょうじょう} 症状	考えられる副作用など
めまい、ドキドキする、脈が遅くなる、気を失う、脈がとぶ	不整脈 [心臓に障害のある人]
ドキドキする	動悸 [心臓に障害のある人]

- この薬は、患者さんや保護者の方が正しい使い方を十分に理解したうえで使用してください。
- 過度に使い続けると、不整脈（脈が乱れる）、場合によっては心停止（心臓が止まる）を起こすことがあります。特に発作が起きた時は使いすぎになりやすいので十分に注意してください。患者さんや保護者の方は、使いすぎによる危険性をよく理解し、指示された使い方や使う量を守ってください。
- 使いすぎを防ぐために、使い方や使う量を正しく守ってください。正しく使っても効果が感じられない場合は、気道の^{えんしょう}炎症が悪化している可能性がありますので、医師に相談してください。
- 発作が重くて吸入しても効果が不十分な場合は、できるだけ早く^{いりょうきかん}医療機関を受診してください。
- 子どもが使う場合は、保護者の方も正しい使用方法を理解して^{かんたく}監督してください。

4. ほかに知られている副作用

「3. この薬を使うにあたり注意すべき副作用・注意すべきこと」に記載されている副作用のほか、比較的よくみられる副作用の一例は以下のとおりです。これら以外の副作用もあらわれることがあります。これらの症状や、普段と異なる症状に気づいたら、医師や薬剤師に相談してください。

主な症状	考えられる副作用
頭が痛い、頭が重い感じがする	頭痛・頭重感
手足のふるえ、首のふるえ	振戦
吐き気、吐く	嘔気・嘔吐

5. 保管方法

直射日光と湿気をさけて室温（1～30℃）で保管してください。吸入口は時々取り外し、温水でよく洗い、清潔に保管してください（吸入器本体は絶対に水洗いしないでください）。吸入時以外は、吸入口にキャップを付けて、携帯袋に入れ、子どもの手の届かないところに保管してください。吸入器に強い衝撃吸入器に強い衝撃を与えたり、キャップおよび吸入口以外の吸入器本体を絶対に分解したりしないでください。吸入器（プラスチック）の中には、ポンペ（アルミ缶）が入っているため、絶対に吸入器を火中に投入しないでください。

6. 問い合わせ先

症状、使用方法、副作用などについて不明な点がある場合は、医師や薬剤師におたずねください。

この製品に対する一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売業者：大塚製薬株式会社 (<https://www.otsuka.co.jp>)

電話：0120-922-833（医薬情報センター）、受付時間：9時～17時（土、日、祝日、休業日を除く）

※医薬品副作用被害救済制度：お薬は正しく使っていても、副作用が起こることがあります。もしも副作用で重い健康被害が生じた場合に、医療費や年金などの給付が受けられる公的な制度です。

制度の詳細はこちらをご覧ください。

https://www.pmda.go.jp/kenkouhigai_camp/index.html

なお、抗がん剤、免疫抑制剤や抗ウイルス薬などにはこの制度の対象にならないものがあります。対象外となる医薬品はこちらから検索いただけます。

<https://www.pmda.go.jp/relief-services/adr-sufferers/0022.html>